

枝物収穫体験【1年生】 地域の魅力を再発見！

10月11日、小瀬高校1年生が、JA常陸奥久慈枝物部会と地元の枝物栽培農家の協力を得て、枝物収穫体験を行いました。

県北地区における枝物栽培は、平成17年に、JA常陸奥久慈枝物部会長の石川幸太郎氏らが中心となり、遊休耕地を解消しようと生産者9人で常陸大宮市での花桃の栽培を始めたことが出発点でした。

現在では、花桃のほか各種ヤナギ類やミズキ類などを市場に出荷。年販売額1億3千万円を超えるまでに成長し、県北の「奥久慈ブランド」として認知されています。



<収穫から葉の剪定へ>

生徒は、グループに分かれて農家のお宅を訪問し、ご協力いただいた農家の方々から枝物収穫についての説明を受けた後、実際に畑での収穫作業を行いました。収穫後は、出荷に向けた葉の剪定や枝を束ねる作業に、真剣な表情で取り組んでいました。作業の合間には、農家の方々から枝物栽培のやりがいや苦勞についてお話を聞くことができました。地域の産業について、理解を深めることができました。



枝物栽培農家の方々からは、とても丁寧に作業の手順等を教えていただきました。生徒にとっては、地域の魅力を再発見する貴重な機械となりました。

<生徒の感想>

枝物の収穫を体験した生徒からは、「枝物の収穫は、想像していたよりもたいへんな仕事だった」「20～40代の若い方も生産者に加わり専業農家として働いていると知り、自分も地元産業を支えたいという気持ちになった」などの感想が寄せられました。

今回の貴重な体験を通して、地域の産業の価値を実感するとともに、地域起業精神の涵養につなげていきたいと思えます。

No Challenge No Future !